

北支宣撫官 — 日中戦争の残響

太田 出 著

定価 2,700 円+税 / A5 判 並製 / 10 月中旬刊 / ISBN978-4-86722-122-8 C0021



“武器なき戦士” 宣撫官の実像に迫る！

1937年、中国天津に誕生した(北支)宣撫官は、軍事占領後に民衆の食糧、農務・医療など生活上の問題を解決する任務上、軍の意向と正面から衝突し、戦後も葛藤し苦悩し続けた。1950年に中国戦犯として捕らえられ、1961年に釈放された宣撫官、笠実(りゅうみのる)を中心に、宣撫班総班長の八木沼丈夫、宣撫官 陳一徳、山西残留の中心人物城野宏らの足跡をたどり、遺族たちへのインタビュー、新発見の文献資料から、忘れられつつある記憶と記録を掘り起こす。

〈目次〉

- プロローグ—帰ってきた宣撫官 笠実
- 第1章 宣撫廟(国際靈廟)
- 第2章 宣撫官 笠実
- 第3章 宣撫班総班長 八木沼丈夫
- 第4章 中国人宣撫官 陳一徳と宣撫工作
- 第5章 山西顧問補佐 城野宏と山西残留
- 第6章 「戦争」を生きつづける戦後日本社会
- エピローグ—あの時代に生きた夫へ、父へ、祖父へ



【著者紹介】太田 出 (おおた・いずる)

1965年 愛知県に生まれる。1988年 金沢大学教育学部卒業。
1999年 大阪大学大学院文学研究科博士課程修了。
広島大学大学院文学研究科准教授を経て、現在京都大学大学院人間・環境学研究科教授 博士(文学)。
主著：『中国近世の罪と罰—犯罪・警察・監獄の社会史』(名古屋大学出版会、2015年)、『関羽と霊異伝説—清朝期のユーラシア世界と帝国版図』(名古屋大学出版会、2019年)。貴志俊彦・白山眞理編『京都大学人文科学研究所所蔵 華北交通写真資料集成 全2巻』(国書刊行会、2016年、共著)。

直取引代行 トランスビュー

えにし書房の商品は、トランスビューの取扱で納品します。直接取引の条件はトランスビューの商品とすべて同じ(返品随時可)です。取次ルートの場合は八木書店経由(返品可)です。トランスビューとお取引がない書店様は小社にご連絡ください。ご注文は1冊からお気軽に！

貴店名

ご担当

『北支宣撫官』

冊